

# エネルギーの未来描こう

## 高校生レポートコンクール 入賞者決まる

青森県商工会議所連合会は、1993年度から県内の高校2年生を対象に毎年フランスとスウェーデンのエネルギー施設を見学し、さらに現地高校生と議論することで国際的視野から将来のエネルギーの在り方を考えもらつ「青森県の高校生による海外エネルギー事情研修会」を開催。これまで26回で計180人が参加しました。新型コロナウイルス感染症の流行で2020・21年度は研修会を中止し、代替行事として「青森県から考える世界・日本のエネルギーのこと」をテーマに高校生エネルギーレポートコンクールを行いました。329の応募作品から最優秀賞・優秀賞の計4作品と両国専門家からのメッセージを紹介します。

### 最優秀賞



#### 脱炭素社会創り上げよう

工藤 まあやさん(むつ工業高校2年)

世界は今、地球温暖化防止のため脱炭素社会を目指している。2021年1月現在、世界124カ国・1地域がカーボンニュートラルを目指しており、その原因の一つは、東日本大震災以降、火力発電、特に石炭を使った発電が依存が高まっていることである。具体的なエネルギー消費量は増加傾向あり、原子力発電が減少した分を再生可能エネルギーと火力発電で賄つているのだから、温室効果ガス排出量が増えるのは当然である。

これを解決するためにはどうすればいいのだろう。私は青森県立むつ工業高等学校設備・エネルギー科の授業を通して、これが解決するためにはどうか、世界では現在「カーボンプライシング」が注目を集めている。これは炭素に価格を付けて、民間事業者や消費者等の脱炭素への行動変容を促す手法で、このよくな規制によりカーボンニュートラル実現に貢献するものである。EUではそ

の取り組みだけではなく、私は導入されているが、その税収をいかに活用するか重要な論

点の一つだ。ただし、国や企業等の脱炭素への行動変容を促す

手法で、このよくな規制によりカーボンニュートラル実現に貢

献するものである。EUではそ

の取り組みだけではなく、私は

もうと個人レベルで意識を高め

ていくべきだと考えている。

日本では現在森林がハイペー

スで減少している。森林伐採

した後、植林などもせず、手を

付けていないものが多いのだ。

青森県は森林が6割を占めてい

るため、多くの森林を温暖化防

止のためにも活用するべきだと

思う。例えば、年数が経つてい

る木はCO<sub>2</sub>の吸収量が少ないた

め、そのような木から伐採をし

るの後ボランティアなどで植林

を推進していくなどの工夫が必要だ。

他のメリットも多いため、課題をクリアすれば有効活用で

きる。地熱発電は大きな可能性

を秘んでおり、まだまだ発展途

上なのだ。さらに私たち設備・

エネルギー科は、課題研究にお

いて地中熱による融雪研究に取

り組んでいる。今年度は農業用

ビニールハウスを建設し、融雪

の協力や国際的取り組みが重要になつてくると思われる。現在

の社会をつくり上げることで、

それが私たちの役割だと考える。

以上のことから、地球温暖化

防止のためのエネルギーの有効

活用やカーボンニュートラル実

現のための取り組みなど、人々

の協力や国際的取り組みが